

## 自殺予防いのちの電話

### 毎月10日実施から一年を経過して…

(2007年9月10日～2008年8月10日)



全国いのちの電話の相談員のみなさまをはじめ、関係者の方々の絶大なご協力、ならびにご努力によって、2001年から毎年フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」を実施することが出来ました。お陰様で、先にお配りした実施報告書にありますように、初期の目標を成し遂げることができました。ここに謹んでお礼申し上げる次第です。

特に昨年9月から毎月10日を「自殺予防いのちの電話」(フリーダイヤル)の日と定め、この

一年は年間をとおして行った最初の一年でありました。

これは年間12回(昨年までは12月の1週間)という実施日の拡大により、相談件数を可能な限り高めて、我が国の年間自殺者総件数をなんとか減少させ、一人でも多くの「いのち」を助けたい、大切にしたいというみなさまの悲願がそこにございました。

報告書でご覧頂きますように、2007年度(9月～2008年3月)の受信件数は17,154件でした。詳しい内容については、実施報告書をお読み頂き、更により効果的な本事業の推進を図りたいと存じております。

また、実施にあたった関係者のみなさまのご意見をお寄せ頂き、次年度に向かっての参考にさせて頂きたいと思っております。

ここに再度、相談員さんはじめ、お世話になった全国各センター、連盟事務局、関係諸団体の皆様方に、篤く御礼申し上げる次第です。

2007年9月～2008年8月

までの集計です。

受信件数…29,449件 (男性:18,061 女性:11,388)

内自殺志向…9,776件 (男性: 5,222 女性: 4,554)



#### 『つながるいのちの電話のために…』

自殺予防いのちの電話は、話中でつながらない電話をつながるようにしたいという想いから始まりました。まず、フリーダイヤルの「自殺予防いのちの電話」を設置し、2005年よりインテリジェントサービスの導入により、話中の場合でも、全国いのちの電話のいずれかのセンターに速やかに転送されるというシステムが確立されました。2007年度受信件数は17,154件、受信率20% (受信件数÷かかってきた件数)。この数字は必ずしも高いとは言えません。しかし、初年度(2001年度)同数字(10%)の倍となり、通常の電話と比べても、はるかに高い受信率だと思われます。今後、さらにシステムの改善、各センターのシフトの工夫なども試みながら、フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」を必要とするひとたちに“つながるいのちの電話”を目指していきたいと思います。

## 相談員ひとり一人の力が支える 自殺予防いのちの電話

日本いのちの電話連盟のホームページをご覧になつたことがありますか？

卷之三



いのちの電磁振動音

20周年  
人気回フリーダイヤル受付状況(PDF: 4.2KB)  
人気回フリーダイヤル受付状況(PDF: 3.8KB)  
人気回フリーダイヤル受付状況(PDF: 10.7KB)  
人気回フリーダイヤル受付状況(PDF: 3.9KB)  
人気回フリーダイヤル受付状況(PDF: 3.9KB)

2002年  
2005年  
2009年  
2014年  
2014年以前

ここには、全国の各センターで受けた電話の統計が逐次更新されています。

電話を受けた相談員が責任を持って受信記録や背景票を記入し、それを各センター事務局の方が迅速に補助事業事務局に提出しています。

届いた受信記録や背景票は連盟の補助事業事務局で担当が集計し、ホームページに掲載します。

この一連のどの作業が疎かになっても、成り立ちません。このような皆さんひとり一人の責任ある連携が、自殺予防のものの電話の継続を可能にしています。

次、シラッパを脱ぐと、腰元は、腰元の腰元。

応援メッセージが続々…

— 皆さんの献身的な努力に改めて感謝します —  
広島市長：秋葉忠利氏

「広島いのちの電話」が今年開局20周年を迎える記念式で、広島県城納副知事と広島秋葉市長からお祝いの言葉が述べられた。広島市長は広島市のホームページの中で、「当日の感動を少しでも市民にお伝えできれば幸いです」と述べられ、次のようにコメントされた。「日常的な会話でも私たちにとって「聞く」という行為が如何に難しい、ましてや、生死に関わるような問題を抱えている人の話を、相手の立場に立って、温かく、いわば「友達」として「聞く」ことが、例え私はできるかと問われても、そして何とか役に立ちたいと思う気持はあっても、「不可能」あるいは「難しい」と答えるのが精一杯だと思います。広島でこの難しい仕事を20年間続けている方がいらっしゃるとのことでした。ただただ敬服するのみです。」

広島市メールマガジン第126号掲載  
(2008年6月25日発行より抜粋)

#### 再確認！自殺予防いのちの電話の役割

フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」は、昨年9月より毎月10日（午前8時から24時間）の実施となりました。

この1年をふり返った時、月1日とはいえ、フリーダイヤルを毎月継続して実施することは、各センターにとって決して容易なことではありません。通常の電話に加えてフリーダイヤルの担当表を作成すること、転送システムをスムーズに機能させるために、休むことなく絶えず電話を取り続けること、そして「死にたい」と思うほどの重く苦しい悩みを受止めること等々、相談員にとっては大変なエネルギーを要することと言えます。

いろんな電話があり、中には聞くに耐えない電話もあります。しかし「一人きりの生活で月1回のフリーダイヤルを心待ちにし“いのち綱”にしている」と言う老人、うつ病で邪魔者扱いにされたり、社会復帰の見込みも立たず、生きることに絶望的になっている人たち、「親に捨てられ、何のために生まれてきたのか」と訴える少年等々、本当に孤独と絶望の中にあるひとたちからの電話が数多く寄せられていることも事実です。

このフリーダイヤルを通して、どれだけの人たちの「いのち」が救われたかどうかはわかりません。でも「もう少しは生きてみよう・・・」、「また1ヵ月がんばります・・・」と言ってくれた「かけ手」(相談者)の声があることも事実です。また電話のあと、これまでの気持ちが和らぎ、少しは落着いて生活できている人もおられることとと思います。

このようなフリーダイヤルを実際に聴き続けながら「自殺予防いのちの電話」が在ることを絶えず広く社会に知らせていくことが大事ではないでしょうか。自殺予防を中心とする全国いのちの電話のようなネットワークは、日本ではほかに例を見ません。そのことを誇りに思うと同時に「いのちの電話」としての社会的使命を果たしていきたいと思います。

報告書より

自殺の危機は精神科の治療を受けたことのない人に多いのではなく、治療中の人が多いことが今回の背景票の集計から読み取れる。精神科の治療中が8割になり、身体疾患の治療中の人も約1割いる。

この割合は横浜市立大学の救急救命センターに搬送される自殺未遂者の調査(7割~9割が精神科の受診歴がある)と一致する。精神科治療を受けている人の中で、高い率で自殺危機が発生することになる。このことは、治療と平行して未遂後のケアが不可欠だということを意味する。

そのケアの中身は医療の専門性のみではなく、地域での取り組みも欠かせない。いのちの電話の相談員は、一般市民として、危機に際して初期消火のために“こころの消防士”とも言うべき役割をとり続けている。いのちの電話の働きは今後も一層必要であろう。